

山菜の王様

2025. 5. 21

今年も、たらの芽を食べることができた。もちろん、天ぷらである。たらの芽には、特別な思いを抱いている。「校長室だより～燦燦～」にも「福島民友新聞『随想』」にも、たらの芽の思い出のことを書いた。

以前も書いたことがあるが、ありがたい読者の一人にKさんという方がいる。何度か、私の文章に登場していただいている。娘さんにも出ていただいた。そのKさん親子が、校長室に来て、たらの芽を届けてくれたことがあった。

今年も、Kさんがたらの芽を届けてくれた。我が家の食卓には、たらの芽の天ぷらが登場した。感謝しながら、かみしめるように、味わいながらゆっくりと食べた。

数年前から、宮城県白石市にあるうどん屋さんに行くようになった。知り合いの方に教えてもらったお店である。初めてのときは、どんなお店なのかと期待しながら、そのお店に向かった。期待はしていたが、期待を裏切らないどころか、感動さえ与えてくれる抜群のうどんだった。

それ以来、うどんというと白石に行っている。それも一回目で確実に入れるようにと、開店30分前には着くようにしている。この前も食べたくなり行ってしまった。予定通り、一回目で入れた。

季節ものの別メニューとして、たらの芽とこしあぶらの天ぷらがあった。これは注文するしかない。メニューには、山菜の王様であるたらの芽、山菜の女王であるこしあぶらという説明があった。王様と女王の組み合わせである。最強ではないか。山菜にさほどの興味がないためか、たらの芽とこしあぶらが、王様と女王であることを認識していなかった。Kさんからは、何度も山菜の王様をいただいていたことになる。

なぜ王様なのか。食味のよさ。独特のほろ苦さ。他の食材との相性のよさ。高い栄養価。これらが理由であろうか。一方、女王はというと、山菜なのにポリフェノールやタンパク質も含まれている。香りが高く、ほろ苦く上品な味がするため、その上品さや風味から女王と称されるようになったらしい。いずれも、日本の春が誇るスーパーフードである。

小学校の教員となり、緊張しながら各家庭をまわった初めての家庭訪問。ケーキにお菓子、お茶にコーヒーと出していただき恐縮してしまった。中でも、極め付きは、たらの芽の天ぷらだった。今思えば、山菜の王様を出していただいたことになる。ありがたかった。これからも、春が来れば、山菜の王様を味わっていききたい。